

■ 講習会関係

Q. 剖検講習会の専門医受験者用受講証明書が手元がない場合の対応は？

A. まずメール履歴を確認し、見当たらない場合は事務局へ受講年度を連絡し再発行を依頼する。

Q. 過去の講習会受講証を紛失、発行し忘れた場合は？

A. 組織診断に関する講習会、分子病理診断および分子病理学に関する講習会は春総会のオンデマンドで受講すれば即時発行可能。

■ 病理解剖・剖検関係

Q. 法理解剖症例は申請に含まれるか？

A. 研修施設の症例でなくても可。

Q. 開胸のみ・開腹のみの症例は認められるか？

A. 明確に不可ではないが、審議対象となる可能性があるため、可能であれば含めない方が望ましい。ネクロプシーや局所解剖は不可。

Q. 研修期間中に執刀し、報告書完成が後日の場合は？

A. 申請締切までに組織所見を含めた正式報告書が完成していれば可。

Q. 剖検報告書の考察が不十分な場合は？

A. 文章による考察が必要。不足している場合は追記が望ましい。

Q. 剖検報告書の匿名化の範囲は？

A. 患者名・ID は削除。剖検番号は残して可。

Q. 剖検報告書に署名は必要か？

A. 名前が表示されていれば不要。

Q. 病理解剖 24 例のうちハンガリー4例、調査解剖4例が含まれているが、証明書や書類の提出の仕方について。

A. 病理解剖リストに「ハンガリー、業績解剖など」わかりやすく記載し、解剖報告書のコーナーに他の症例と同様にアップロードする。

ハンガリーは修了証で4例扱いとなるため、修了証をアップロードする。

Q. 解剖だけで連携施設に行っていた場合に研修期間に入れるかどうか。

A. 解剖だけの場合は不定期に数時間程度行っているだけと推定されるため、研修期間に入れる必要なし。

Q. 他施設の剖検報告書の診断者の名前が主執刀者のみで、その施設の責任者の名前が入らない。その場合の対応は？

A. 責任者の名前が入っている書類が理想だが、その場合は本人の名前があればOKとする。

■ CPC 関係

Q. CPC 症例の扱いは？

A. 必ずしも 24 例に含める必要はなく、期間内であれば主執刀でなくても可。

Q. CPC レポートの組織写真について。全臓器ではなく、一部の臓器の写真のみ撮影している。重要臓器のみの写真でよいか。

A. 必ずしも全臓器の写真が含まれてなくてもよいが、ネクロプシーや局所解剖と疑われない程度に複数の臓器・組織写真があった方がよい。

Q. CPC 資料に申請者名が一部のみ記載されている場合は？

A. 病理側資料に名前があれば可。該当資料を先に配置すると望ましい。

Q. CPC の日付は必要か？

A. 研修期間内であることの確認のため記載必要。

Q. CPC 報告書で臨床情報はどの程度必要か。

A. CPC の際の臨床側のプレゼン資料そのものでも良いし、病理側がプレゼンする際に冒頭で述べる程度の臨床情報のサマリーでも内容が分かれば OK。

■ 研修・資格関係

Q. 死体解剖資格が未取得の場合は申請可能か？

A. 原則不可。事情がある場合は要相談。

Q. 研修期間中の休職の扱いは？

A. 病気による休職は 6 か月まで研修扱い。

Q. 研修証明書の連携施設の責任者は誰を記載するか？

A. 連携施設に指導医がいればその医師。不在の場合は基幹施設の統括責任者。

■ 書類・申請手続き関係

Q. 推薦書の署名は？

A. 責任者の自署・捺印が必要。過去の推薦書の使いまわしは不可。

Q. 振込控えは ATM のものでもよいか？

A. 可(ネットバンキングは画面コピーでも可)。

Q. 旧姓・新姓の扱いは？

A. 新姓で申請し、旧姓欄に記載。仕事で旧姓を利用している場合は旧姓で申請可。会員システムと一致している必要あり。

Q. PDF 化の方法は？

A. Word 等から PDF 化で可(印刷・スキャン不要な場合あり)。

Q. 細胞診専門医をすでに持っている場合の提出書類について。

A. 講習会の受講票は不要で、その代わりに細胞診専門医の認定症の写しをアップロードする。

■業績関係

Q. 人体病理の業績について。初期研修期間に投稿した論文であるが、アクセプトは研修期間中。この場合、業績として認められる？

A. OK。

Q. 論文・学会の業績リストは3件までだが、内容に不安がある場合はそれ以上アップロードしてもよいか。

A. 追加でアップロードしてもよいが、+1件くらいが妥当。

Q. 2026年4月の春の病理学会総会の発表内容も業績として記載してもいいかどうか。

A. 審査は5月なのでOK。

Q. 業績の論文の条件として「査読あり」、「人体病理学関係」と記載されているが、日本呼吸器外科学会の論文でもいいかどうか。

A. 条件を満たしていればOK。

査読システムがあるかどうか微妙な雑誌については、「査読あり」ということが明記されている投稿規定やwebサイトの写しを同時にアップロードしてほしい。

「人体病理学関連」というのを評価する際には病理の組織像が含まれているかどうかで判断しているので、組織の写真は必須と考えてもらいたい。

Q. 業績として病理解剖の症例を臨床側が報告した論文を予定しており、組織像が supplemental figure にも含まれている。その場合の対応は？

A. 本文に supplemental figure もつけた状態でアップロードする。

■ その他

Q. 迅速診断でフルネームが出ない場合は？

A. 苗字のみでも可。必要に応じて推薦書で補足。

Q. 迅速診断の報告書が病院の診断システム上、診断者欄に自分の名前がのらないが、所見欄に名前が記載されている。それでもいいか。

A. タイピングされたものであればOK。手書きで自分の名前を追記したような書類だと疑義が生じる。

Q. 途中保存ができない部分の申請内容入力、申込後に内容の修正ができるか。

A. 全ての書類をアップロードして登録完了を行う前までは修正が可能。

Q. 専門医機構の研修修了証の添付は必要か。

A. 不要。病理学会から機構のシステム上で確認可能。

Q. 申請の入力フォームの学歴、職歴はいつから記載するか。

A. 大学卒業からでOK。

Q. 研修中に休職した場合、その旨を記載するのかどうか。

A. その他の欄に記載してもらう。

Q. 書類提出後、審査が5月とのことだが、内容に不備があった場合はどうなるのか？

A. 不備があった場合、5月末から6月上旬にかけて該当者にメールで連絡し、書類の差し替え依頼や不足分などを提出してもらうため差し戻しを実施する。毎年、差し戻しが20名程度いる。

Q. 写真について。縦横比4:3が必須？ピクセル数の基準は？スマホでもOKか？

A. 縦横比は厳密に4:3の必要なし。ピクセル数の基準もない。妥当なサイズと容量でアップロードしてほしい。

スマホ撮影でも OK だが、その際は背景に気を付ける。